

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
平山 篤志
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔

(五十音順)

今回の特集は、「呼吸器診療のリスク管理」であり、6人の先生方に呼吸器疾患診療に伴う様々なリスク管理に関して論述いただいた。

松岡由香先生らは、呼吸器診療に不可欠な気管支鏡検査は、危険性を重視するばかりに縮小検査にならないようにする必要がある。そのためには、麻酔方法の工夫、検査中のモニタリングなどに工夫を重ね、予測される合併症はなるべく回避するようにし、不測の事態には重大事故に発展する前に対策できるようなサポート体制を構築することが大切であるとされている。

竹内新司先生らは、肺癌薬物療法に関して、最近の分子標的薬は独特の薬物有害事象を持つため、従来の抗癌剤とは異なるリスク管理が必要であること、また癌薬物療法の中心が最近外来に移行していることで、医師、薬剤師、看護師などの緊密な連携の重要性がますます高まっているとされている。

髻谷満先生らは、呼吸リハビリテーションはその普及により、各種セラピストや看護師など多くの職種が関わるようになっており、チームワークが重要であることはもちろんであるが、チーム構成員の全員が呼吸器のみならず全身に対するリハビリテーションの効果とリスクを習熟する必要があるとされている。

外須美夫先生は、人工呼吸におけるリスク管理において、危機の保守点検、異常事態の早期発見・早期対処はもちろん大切であるが、その前に出来るだけ人工呼吸器を使わない、使うとしてもできるだけNPPVを用いる、自発呼吸を温存して筋弛緩薬を使わないなどのリスクの軽減が必要であるとされている。

岩永知秋先生らは、在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)などの在宅医療において、医療機器業者による故障や災害時を含めた保守・管理がリスク管理における重要な要素であり、医療者は患者・家族とともにこれを見守り、場合に応じて適切な管理を行っていくことが大切であるとされている。

佐藤隆司先生らは、院内感染のリスクは、ICTメンバーのみがどのように努力しても、一人の職員が不注意であれば大きな院内感染が生じ得ることを認識することが大切であり、全員が安全管理・感染対策の実務担当者であるという自覚を感染対策講習会などで醸成する必要があるとしておられる。

今回の特集をお読みなれば、「日常呼吸器診療で抱えている様々なリスクを回避する努力をすることが、より高度で良質な医療を構築することに繋がる」ということがご理解いただけると思う。

(三嶋理晃)

呼吸と循環(第58巻 第8号)

2010年8月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

2010年、年ぎめ予約購読料 31,800 円
(電子ジャーナル閲覧オプション付 41,400 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株)医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY (株)出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。